

「四国防災・危機管理プログラム」成果報告及び第8期生修了記念
第10回防災・危機管理人材養成シンポジウム

四国防災・危機管理プログラム 成果報告

SHIKOKU

Disaster Prevention and

Crisis M

Education Program



四国防災共同教育センター
センター長 長谷川修一
令和4年3月16日

四国防災共同教育センター <連携大学> 香川大学、徳島大学
<連携行政機関> 香川県、徳島県

四国防災・危機管理プログラム

◆ 大規模広域災害やグローバル化する危機に対して、適切かつ迅速に対応できる専門家を養成する事業

- ・ 平成25年度から募集、令和3年度で第8期生の修了
- ・ 香川大学と徳島大学が連携して開設、香川県、徳島県が協力

◆ 3つのコースに分かれた大学院の講義

1. 行政・企業防災・危機管理マネージャー養成コース
2. 救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター養成コース
3. 学校防災・危機管理マネージャー養成コース(現在募集中止中)

修了要件(単位数)

共同実施：4科目7単位

コース専門：3科目5単位

合計：12単位

プログラム修了生数

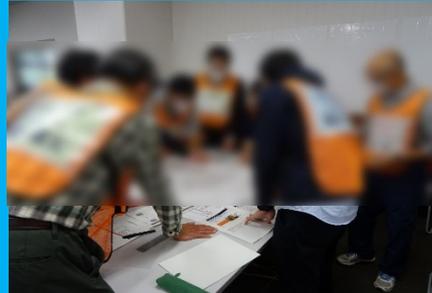
コース	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	小計
行政・企業防災コース	37	11	29	22	24	17	19	17	176
救急救命・災害医療コース	3	3	7	3	3	2	3	0	24
学校防災コース	5	2	6	0	0	0	0	0	13
合計	45	16	42	25	27	19	22	17	213

※平成29年度以前と平成30年度以降はコース分類が異なる

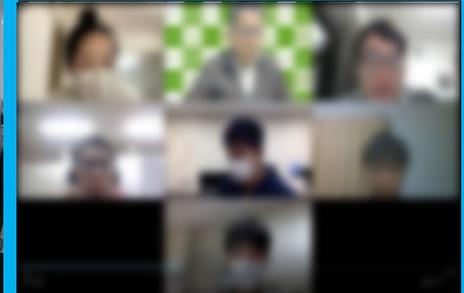
四国防災・危機管理プログラム コース選択

① 行政・企業・医療防災・危機管理 マネージャー養成コース(香川大学)

地域社会を構成する自治体・企業・医療機関などの地域組織のリスクマネジメント、事業継続計画BCPやMCP策定、住民の安全・安心を守れる防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



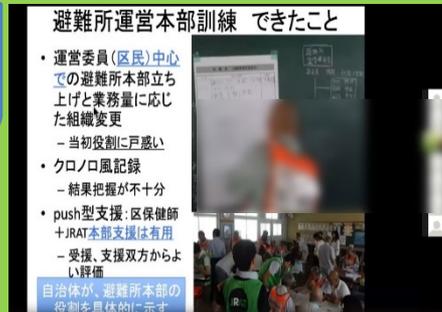
HUG(避難所運営ゲーム)訓練



遠隔講義の様子
(グループディスカッション)

② 行政・企業防災・危機管理 マネージャー養成コース(徳島大学)

地域社会を構成する自治体・企業・地域組織のリスクマネジメント、組織及び地域のBCP策定、住民の安全・安心を守れる防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



遠隔講義の様子



PFA研修

③ 学校防災・危機管理 マネージャー養成コース

地域コミュニティと連携して、学校・地域の防災教育、教育継続計画(ECP)策定、児童・生徒の安全・安心を守れる指導者の育成を目指します。



講義風景
(TV会議システムによる遠隔講義)



発表資料

令和3年度入学生 カリキュラム (講義科目群)

四国防災・危機管理プログラム授業科目一覧

区分	科目名称	単位数	開講学期	曜日
共同実施基礎科目	リスクコミュニケーション (1年生)	2	前期	月 18:30～
	危機管理学 (1年生)	2	前期	火 18:30～
	災害と健康管理・メンタルヘルスケア(1年生)	2	後期	火 18:30～
	防災・危機管理実習 (1年生)	1	前期	集中 (11/6・11/7)
行政・企業・医療防災・危機管理 マネージャー養成科目群 (香川大学)	行政・企業・医療のリスクマネジメント(1年生)	2	後期	水 18:30～
	事業継続計画(BCP・MCP)の策定と実践 (2年生)	2	前期	月 16:20～
行政・企業防災・危機管理 マネージャー養成科目群 (徳島大学)	行政・企業のリスクマネジメント(1年生)	2	後期	水 18:30～
	事業継続計画(BCP)の策定と実践(2年生)	2	前期	月 16:20～
実務演習科目	行政・企業防災・危機管理実務演習(2年生)	1		後期
	救急救命・災害医療実務演習(2年生)	1		後期
	学校防災・危機管理実務演習(2年生)	1		後期

授業風景(共同実施基礎科目)

リスクコミュニケーション

受講生が作成した資料を画面共有しながらグループワークを実施

外部講師(フリーアナウンサー)による言語表現(演習)講義

2021年度 リスクコミュニケーション

最終発表

感染症対策に十分配慮した自主的な避難所運営のための研修会の企画

受講生が共同で作成した研修計画をZoom上で発表

四国防災・危機管理プログラム2021年度前期講義アンケート(共同実施基礎科目 リスクコミュニケーション)

このアンケートは、四国防災・危機管理プログラムにおける教育を改善するための資料を得る目的で行うものです。尚、この調査は無記名で、成績評価などとは無関係です。

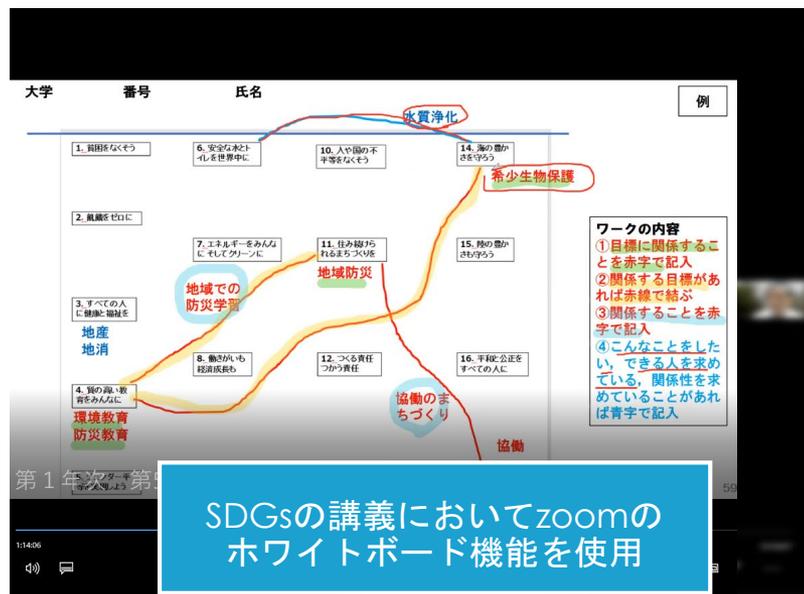
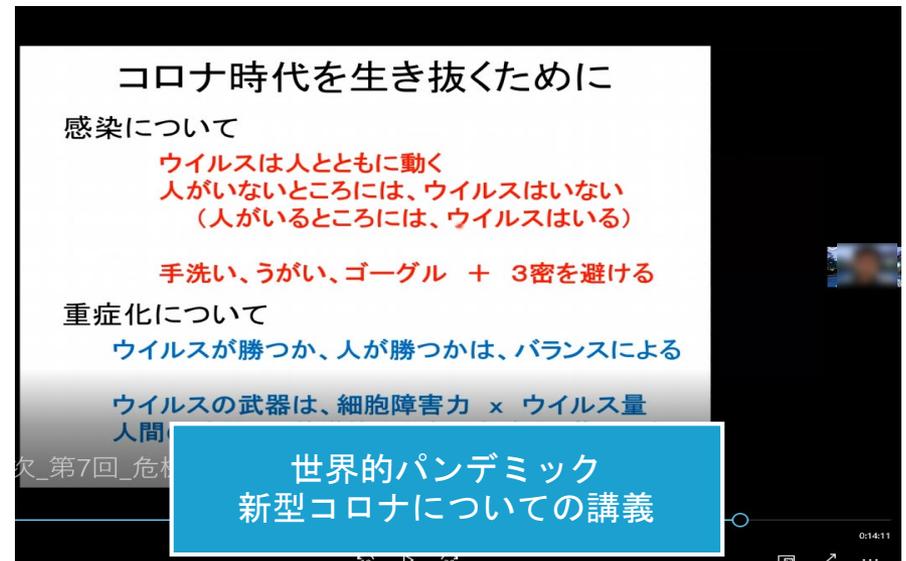
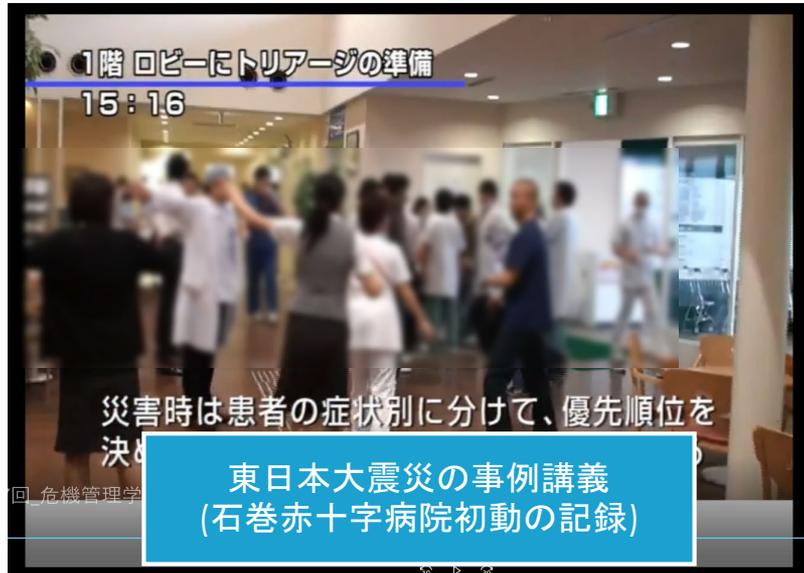
現在のお立場は？

- 社会人
- 学生

講義アンケートをWeb(Googleフォーム)で実施

授業風景(共同実施基礎科目)

危機管理学



授業風景(共同実施基礎科目)

災害と健康管理・メンタルヘルスケア

避難所運営本部訓練 できたこと

- 運営委員(区民)中心での避難所本部立ち上げと業務量に応じた組織変更
 - 当初役割に戸惑い
- クロナ口風記録
 - 結果把握が不十分
- push型支援: 区保健師+JRAT本部支援は有用
 - 受け入れ体制

自治体役割

避難の衛生・環境管理の講義

課題発表の様子

主な放射線事故の種類別件数 (1944-2011.7)

原子炉事故・臨界事故	20
組み立て臨界事故(研究所)	8
原子炉事故	6
化学操作臨界事故	6
放射線発生装置	324
密封線源	212
X線発生装置	86
加速器	25
レーダー-蒸気発生器	1
放射性同位元素	103
超ウラン元素	27
トリチウム	2
核分裂生成物	11
ラジウム	1
診断および治療	48

特殊危険物質・環境保健の講義

PFA研修の様子

授業風景（共同実施基礎科目）

防災・危機管理実習（2日間の集中講義）

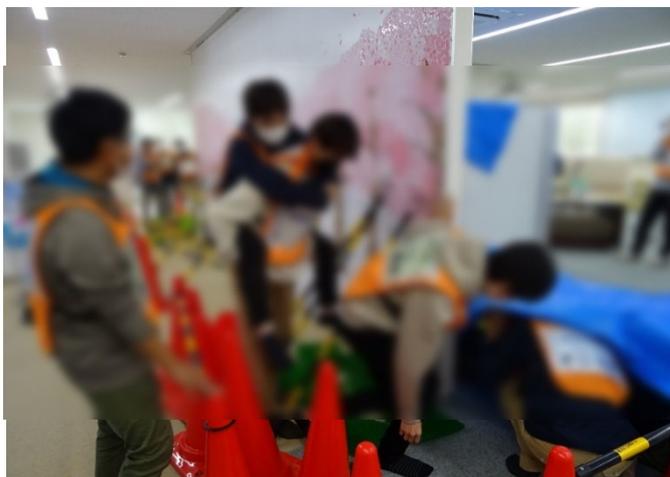
1日目DIG(災害図上)訓練の様子
(香川大学)



1日目HUG(避難所運営ゲーム)訓練の様子
(香川大学)



2日目避難シミュレーションゲームの様子
(徳島大学)



2日目総括DIG訓練の様子
(徳島大学)



授業風景(行政・企業コース)

事業継続計画(BCP)の策定と実践

グループ4
課題4 災害環境や社会の変化に対応できる組織に必要な要件は？

【組織体制】

- ・社会の変化に敏感になる
- ・人材育成のシステム構築
- ・BCPを持っている
- ・変化を逃れない
- ・慣習や風習にとらわれない
- ・第三者の監督がある仕組みがある
- ・組織間の繋がりを持つ

【人材】

- ・リーダシップを発揮できる人材
- ・様々な人材を持っている
- ・危険を察知する嗅覚を持つ
- ・過去の過ちを忘れない
- ・下からの意見を聞く
- ・幅広い情報を持っている

グループワーク
(各グループに講師を配置し指導)

あなたは... 徳島県災害担当課の課長です。
こんな状況です...

目的(～したい):
災害が発生し災害対策本部を設立したが、人員が不足している

困難な状況(でも...):
コロナの接触者として自宅に待機している職員(PCR検査では陰性)がいて、その職員を出社させて働かせるか。

判断のポイント:
コロナ感染のリスクがある人員を使うかどうか

どうしますか? 出社させる・待機させる

グループワーク
(受講生が作成したクロスロードを発表)

プロジェクト成果発表会

- ・8月2日(月)にプロジェクト成果発表会(プレゼンテーション12分、質疑応答8分の合計20分)を実施します。
- ・プレゼンテーション資料はPowerPoint等で作成し、発表会終了後にデータを成果物として提出してください。
- ・プレゼンテーションでは、以下の内容をチェックします。

【チェックポイント】

- ・問題点・課題の洗い出しは適切か
- ・実現可能な解決策の提案がなされているか

演習発表はオンラインで、1～4班で行う。

事業継続計画(BCP)の策定と実践演習課題
香美市事業継続計画
リニューアルプロジェクト

令和3年8月2日

グループ班の代表が演習発表

行政・企業防災・危機管理実務演習(香川大学)

■授業の目的

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

■授業の概要

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を担当教員の指導の下で実施し、実務能力を修得する。

■キーワード

行政、企業防災、実務演習

■到達目標

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

班	所属	氏名	テーマ
1	株式会社 STNet情報システム本部	野口 由香里	・ IT技術を用いた業務の見える化による災害対応力の向上
	香川大学 工学部 信頼性情報システム工学科	西村 和馬	
2	株式会社 ロイヤルコンサルタント	北村 俊幸	過疎地域における自治体職員・地域住民の災害対応力強化に向けた新たな対応
	四国地方整備局 道路管理課	西丸 範生	
3	なし	岡川 知子	水害発生時に避難のスイッチを入れるためには
	香川県危機管理総局危機管理課	長尾 遥希	
4	倉敷市児島消防署	片山 裕貴	地域防災力に対する理想的な消防団の考察
	丸岡仏具店	丸岡 猛志	
5	香川県土木部下水道課	大井 健史	小規模自治体における気候変動を踏まえた都市浸水対策の推進について

のちほど
成果を発表

行政・企業防災・危機管理実務演習(徳島大学)

■授業の目的

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

■授業の概要

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を担当教員の指導の下で実施し、実務能力を修得する。

■キーワード

行政・企業防災・実務演習

■到達目標

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

No.	所属	氏名	テーマ
1	徳島大学 創造科学研究科 理工科学専攻	小山 翔太郎	ブロック塀の安全性評価に関する考察
2	徳島大学 創造科学研究科 理工科学専攻	長谷川 真之	令和2年7月豪雨における保育所の災害対応
3	徳島大学 創造科学研究科 理工科学専攻	木之下 弦	大規模地震発生時における県庁の全半壊家屋・死傷者の情報収集力の評価
4	徳島大学 創造科学研究科 理工科学専攻	難波 真也	大学生の情報収集とその改善方法について
5	徳島大学 創造科学研究科 理工科学専攻	圓谷 政貴	近年の豪雨災害における六角川周辺での浸水被害分析
6	徳島県県土整備部 河川整備課	野村 卓翔	徳島県河川整備課の危機対応について
7	徳島県危機管理環境部 危機管理政策課	廣瀬 幸佑	医療機関における大規模災害時の統一的なタイムライン(行動計画)の策定

のちほど
成果を発表

講義内容の評価

全ての講義に対し授業評価アンケートを実施

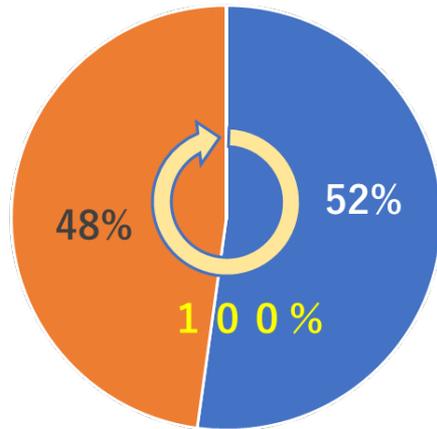
- いずれの講義も、約8割以上が総合的に満足(以下、自由意見抜粋)
 - 講義やグループワークを通して、BCP策定の知識やノウハウについて、本格的に学べて良かった。今回の経験を就職後に職場で役立たせていきたい。(事業継続計画)
 - 企業で仕事をしているだけでは聞けない話もたくさん聞くことができ、BCPを担当している身として非常に有意義な時間を過ごせた。(リスクコミュニケーション)
 - いろいろな種類の危機に対する専門家による講義があり、とても勉強になった。(危機管理学)
 - 災害時の医療など、自分の実務であまり触れない分野の話をきくことができ、非常に有意義だった。(メンタルヘルスケア)。
 - 学生目線だけでなく社会人の方々とのグループワークを行うことで、実際に現場で働いている方の意見や考え方に触れることができた点がよかった。(リスクマネジメント)
 - 今まで講義の中で取り上げられていたことが実習によって身をもって感じる事ができた。(防災・危機管理実習)

令和3年度アンケート結果（一部講義抜粋）

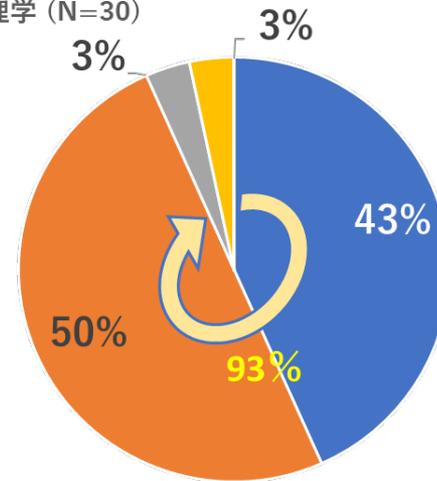
「あなたは、総合的に判断してこの授業に満足していますか？」

■ 非常にそうである ■ おおむねそうである ■ どちらともいえない ■ あまりそうでない ■ 全くそうでない

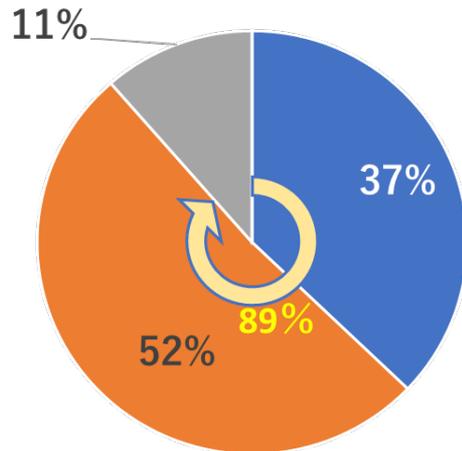
リスクコミュニケーション(N=23)



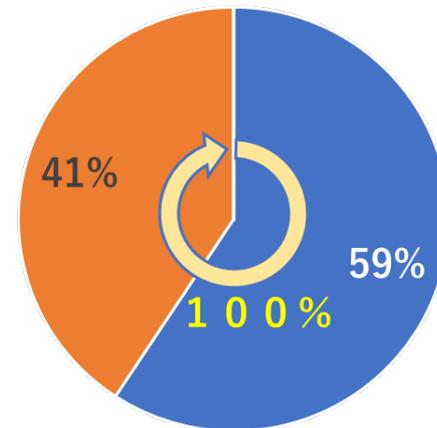
危機管理学(N=30)



メンタルヘルスケア(N=35)



リスクマネジメント(N=27)



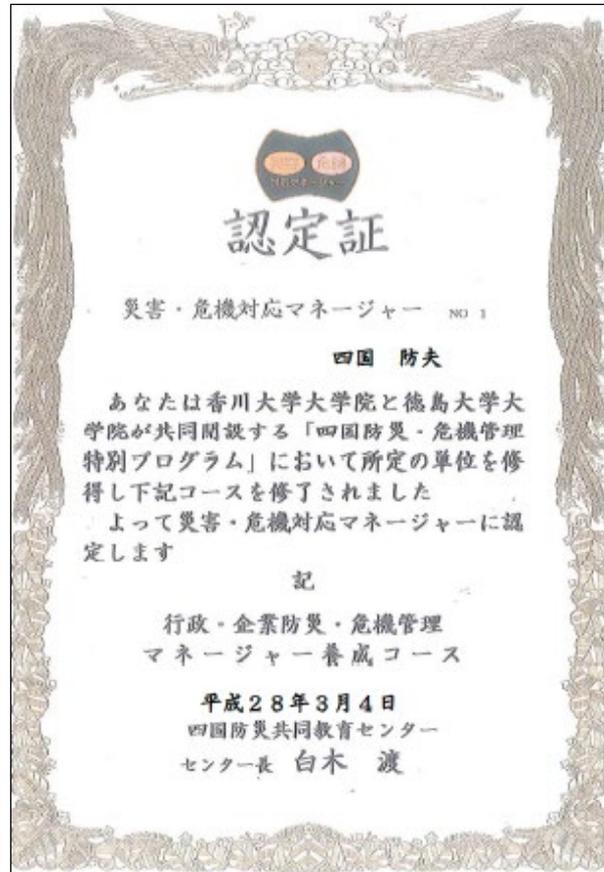
遠隔講義 (web講義) についての評価

遠隔講義についてのアンケートを実施

- 概ね総合的に満足(以下、自由意見抜粋) 黒字:満足 青字:不満
 - 社会人であり、会社との業務の両立や移動時間の効率化が図れる。
 - どこからでも講義を受けられる
 - 講義資料が見やすく、聞き取りやすい
 - 画面の共有があり、議事録を共有しながら討論ができるため、話の内容が逸れにくく内容の濃い討論ができるため。
 - 新型コロナウイルスに感染するリスクが低い。
 - 一年この形式で講義をしてきて、オンラインでの講義にも慣れてきた。
 - グループディスカッションはランダムに班を組んでいただけだったので様々な立場の方と意見交換をすることができた。
 - リモートなので、活発な議論が難しかった(聞くタイミング、話すタイミングのオンオフが難しい)
 - web会議によるグループ内での議論の場合、一方通行となることが多くあるため、意思疎通が難しいと感じました。司会者が、誘導する技術が重要であると感じた。

災害・危機対応マネージャーの資格認定

- 四国防災・危機管理プログラムを修了すると認定
- 「災害・危機対応マネージャー」は徳島大学、香川大学の登録商標



社会人の学びを 経済的にサポート

- 「職業実践力育成プログラム」(BP)に認定
- 「四国防災・危機管理プログラム」は、学び直したいと考える社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムであるとして、文部科学大臣から「**職業実践力育成プログラム**」(BP)に認定されました。



Brush up Program
for professional

- 「**専門実践教育訓練**」の指定を受ける
- 「四国防災・危機管理プログラム」は、厚生労働省の教育訓練給付金の**専門実践教育訓練**として指定を受けました。
- 入学料、受講料などの**50%** (修了すれば**+20%**)の給付金を受給できるようになりました。